

《第 491 回（2022 年 5 月 12 日） 子どもの本の読書会記録》 参加者：6 人

時間：10:00～11:30 場所：オーテピア 4 階集会室

『春の日や庭に雀の砂あひて E.J.キーツの俳句絵本』

リチャード・ルイス/編, エズラ・ジャック・キーツ/絵, いぬい ゆみこ/訳 偕成社

『ゆきのひ』『ピーターのめがね』など、優れた絵本を数多く生み出したアメリカの画家、エズラ・ジャック・キーツ。本書は、キーツが日本の俳句からイメージを膨らませて制作したコラージュの絵本です。俳句の原文・キーツの絵に加え、俳句の英訳と現代語訳も掲載されています。掲載されている俳句には、一茶や蕪村など、現代の私たちにもなじみ深い俳人によるものもあります。

次に、読書会に参加した方の感想を紹介します。

●絵が素晴らしい。元の俳句を英訳し、それを更に現代語訳にするというのは、変わったアプローチで新鮮だった。俳句が表現する自然の描写を、英訳を通して見ると少し印象が違う。26 ページ・27 ページの英訳や現代語訳は、少し違和感を感じた。知らない俳人の俳句もあった。英語や国語の授業でこの本を取り上げたら、面白いんじゃないか。海外出身の知り合いに、この本を読んでどう感じるか聞いてみたい。

●TV で俳句の番組を見るのは好きだが、自分では詠まない。俳句は、言葉の綾や物事のとらえ方が面白い。この絵本は、キーツの絵がとても良い。英訳の言葉のあてはめ方に、文化の違いを感じた。『蛙となれよ冷し瓜 一茶の人生と俳句』（岩波書店）にも俳句の英訳が載っているが、同じ俳句でも訳し方によって印象が全然違う。知らない俳人の作品も載っていた。18 ページの俳句がきれい好き。この絵本に出会えてよかった。

●絵がよかった。絵だけでも十分楽しめる本。字が読めない子も楽しめそう。英訳の出典はバラバラだそうだが、訳す人によって印象が全然違う。いぬいゆみこさんの現代語訳は可愛らしく、分かりやすい。俳句の雰囲気はあまり出ていないと思うけど、こうした訳の方が子どもには分かりやすいかも。英語の勉強で活用できるかもしれない。英訳を読んで、感じ方や焦点の置き方は文化によって違うんだな、と感じた。色んな人の訳を読んでみたい。

●キーツの作品は大好きだが、この絵本は初めて知った。俳句は体質的に合わない。俳句の解釈も訳し方も人それぞれだが、少し違和感を感じる英訳があった。原文はとても表現豊かなのに、英訳は即物的な印象を受けた。しかし、違った解釈や、微妙に原文と訳の雰囲気が違うところが素敵だとも感じた。22 ページの俳句は、英訳にもリズム感があって面白い。大人はつい行間を読み取ろうとしてしまうが、こどもは自然に感じ取ることができるのではないかな。

●描いたのがアメリカ人とは思えないほど絵が日本らしくて驚いた。とても美しい。俳句の世界観と合っている。キーツは、日本に関して造詣が深かったんだろうなと思った。原文と英訳・現代語訳では、やはり受ける印象が違う。英訳・現代語訳だと少し軽い印象があり、違和感を感じる部分もあった。こどもにとっては、俳句との出会いの入り口としていい本かもしれない。読み聞かせにも使えるかも。また、アメリカのこどもがこの絵本を読んでどう思ったか気になる。

●俳句は、一瞬の情景を削って削って研ぎ澄まされた 17 文字で表現するものなので、英語に訳すと何だか長い。その英文を日本語に訳すと何だか俳句とは別モノになったような違和感があった。NHK の番組で、世界中の学校で「ハイク」が学ばれていると知った。その上で再読すると、俳句って面白いかも？と思った。この絵本はたった 17 文字で表す俳句の世界に、英語圏の子ども達が触れることのできる絵本なのですね。

次回 6 月 9 日（木）10:00～11:30 オーテピア 4 階集会室

□『でかい月だな』水森 サトリ/著 集英社 ※文庫版

申込み・参加費不要。新型コロナウイルス感染拡大の状況により、変更・中止となる場合があります。変更・中止については、オーテピアのウェブ・サイトにてお知らせします。